福竜丸だより
— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

（財）第五福竜丸平和協会
〒136　東京都江東区夢の島３－２
都立・第五福竜丸展示館内
電話　（521）8494

被爆四十五周年の三・一ビキニデーを迎えて

杉山秀夫

今から四十五年前、私は広島の城内の木造建物内で被爆しました。爆心地から一、二キロであったにも拘らず、室内で被爆したので熱線を受けず、火傷なしです。

しかし、強い放射能により、日一日と経つ内に貧血、歯ぐきよりの出血、毛髪抜け等の原爆症状が現れ、九月六日に、松江陸軍病院に入院しました。（当時部隊はソ連参戦により鳥取県に陣をしいた。）

その病院の門をくぐった時、遺骨を抱いて帰る未亡人に逢いました。それは、私と共に広島で被爆し、部隊へ帰った准尉の姿だったのです。彼は扁桃腺より洗面器一杯の血を吐いて死んだという。

その彼の室へ入れられたとき、ああ次は自分の番かと、眼の前が真暗になりました。

しかし、私は助かりました。広島と違い、ここ松江の陸軍病院は医薬品も食糧も豊富で、看護婦さんも、患者十三人に五人と恵まれていたからでしょう。

昭和二十九年三月一日のビキニ水爆実験による第五福竜丸の無線長故久保山愛吉の「原水爆の犠牲は私を最後にしてほしい」という遺言と、戦友達の死を無駄にしないよう、原水禁運動に加ったのです。そして昭和三十四年七月に、会を結成しました。

それから三十年余り、一貫して、日本被団協の中にあって、いやその先頭を切って、核兵器廃絶と被爆者援護法制定を要求し続けて来ました。

国会へは延七十五回、八百人近くの代表を上京させてきました。

そしてその間、五人の副会長を始め、二一八人の仲間を失い、清水鉄舟寺に慰霊碑を建立し、毎年核廃絶を誓い慰霊をしています。

原水禁運動の分裂は被爆者にとって最も悲しい出来事です。

私たちは「分裂許すまじ」に統一した、三・一ビキニデーを今日まで守って来ました。

運動を続けること三十年、十二月十五日に初めて、参議院本会議で援護法が可決され、ああ運動もここまで来たなあと思いました。

そして、衆議院選挙で結着をつけるべく、全県の被爆者に訴えてきました。

今年こそ援護法を手に！

そのためにどうすべきか？　と。

二月は、三・一ビキニデーの準備に大変でした。生協連の加藤専務理事らと共に、第五福竜丸の漁労長見崎吉男氏を訪問しました。集会に参加の要請をしに行ったのです。彼は参加できないようでした。健康状態に自信が持てないためのようでした。当時二十三人の乗組員の内八人が癌などで亡くなったとうかがいました。一般の人達とくらべて早く死ぬことは、広島・長崎の原爆被爆者と共通しているではないか。そういう心配はないだろうか。そのために、この人達まで含めて、援護法を制定させなければいけないと思いました。

今回の総選挙で自民党の安定多数の中でも、援護法制定をめざして、粘り強く斗わなければならない。一千万人請願署名を集めて、国民の意思として、国会へ反映させなければならない。

三・一ビキニデーの果す役割は大きい。

（三・一ビキニデー静岡県実行委員会代表委員・静岡県原水爆被害者の会会長）

三・一ビキニ事件記念集会開く

池田長生氏、田村　清氏が記念講演

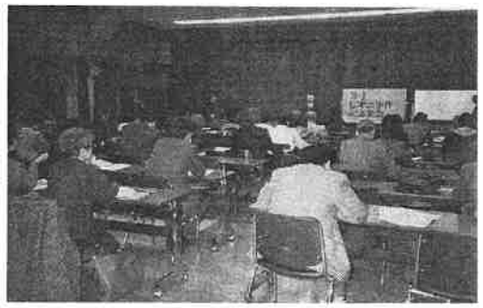
ビキニ水爆実験被災から三六周年の三・一を前にした二月二十八日、協会主催の「三・一ビキニ事件記念集会」が約六十名の参加者を得て、東京の文京区民センターで開かれました。

服部学理事の司会により、小川岩雄理事の開会挨拶、三宅泰雄会長の主催者挨拶ののち、二つの記念講演が行なわれました。

最初に、日本アイソトープ協会理事の池田長生氏が「ビキニ死の灰分析余話」と題して約一時間講演。事件当時東大木村研究室で死の灰の分析にあたった経験、福竜丸の調査のあと自らの頭髪から一〇〇カウントの放射能が検出され騒がれたこと、ウラン二三七が分析されたときの衝撃などにはじまり、木村健二郎教授の思い出、仁科芳雄博士と日本最初のサイクロトロンの完成と研究、敗戦とその廃棄などがスライドを使って分りやすく話されました。破壊されたサイクロトロンが、東京湾に廃棄されるスライドには驚きの声があがりました。

つづいて核戦争防止神奈川県医師の会代表の田村清氏が「核戦争防止国際医師会議（ＩＰＰＮＷ）の活動」について講演。第一回大会から昨年の第九回広島大会にいたる運動の歴史と伝統、その精神と意義等が、第三回大会以来かかさず参加してきた体験にたって報告され、感動をよびました。多くの資料を紹介しつつ、世界の医師の核兵器廃絶への熱意と連帯を語り、自主的な運動への結集の大切さを強調しました。「病める地球をいやすために」と題し、中国新聞に連載中のラウンＩＰＰＮＷ会長の論文も紹介され感銘を与えました。

本多喜美副会長の閉会あいさつに原水爆禁止への運動の一層の前進に力を尽くす決意を新たにしました。集会には元第五福竜丸乗組員の大石又七氏も参加しました。



3・1ビキニ事件記念集会　2月28日 文京区民センター

アメリカからグレンさん―展示館は小学生で賑やか

二月二十八日、マーシャル諸島の被ばく者援護に取り組んでいるアメリカの人類学者グレン・アルカレーさんが豊崎博光氏と共に来館。ぜひ福竜丸に会いたかったと目を輝かせ、最近の調査・研究資料を寄贈、乗組員にインタビューしたい、マーシャルで国際会議も開きたいなどと語りました。

二月は天候不順で来館者は昨年より少なめ（一万五千名）でしたが、六七団体もの来館があり、雨や雪の中、都内・近県から五十余校の小学生が熱心に見学。作文・折鶴も持ちより、説明にも拍手がわきました。

日本山妙法寺の平和行脚

今年も二月十二日、日本山妙法寺の「平和祈念行脚」が展示館前を出発、三月一日、焼津の弘徳院の久保山愛吉氏墓前まで行進し原水爆禁止を訴えました。展示館前の出発集会では読経とうちわ太鼓をうちならして船のまわりを一周、久保山さんの記念碑に深々と合掌し出発しました。

一日、焼津では、三・一ビキニデー集会（静岡県実行委主催）、献花墓参行進などが開かれました。

平和随想 (38)

三宅泰雄

安井郁さんのことと、その思い出については、前にも書きました（平和随想　三十一）。

その号の「福竜丸だより」を、夫人の安井田鶴子さんにお送りしたところ、夫人からお礼の手紙とともに、夫人の歌集『白き風船』をお送り頂きました。

その歌集のなかに「第五福竜丸」と題する歌が、いくつか戴っていましたので、それを紹介したいと思います。

第五福竜丸

東京湾に
つながれていし福竜丸
縄ばしごかけてわれら上りゆく
去りぎわに
ふり返りみれば傾きて
波にゆらげる福竜丸あわれ
風すさぶ
ごみのただ中に捨てられて
あわれひとしお福竜丸は
夢の島
若葉の芽めぐむ公園に
三度出会いぬ福竜丸と
ビキニにて
放射能受けし福竜丸
いま夢の島におかるるをみる

最初の三句は、福竜丸が廃船となり、東京湾岸に捨てられていた頃の、哀われな情景をよんだ歌であり、そのあとの二句は、夢の島公園が発足し、その中に東京都の手で「第五福竜丸展示館」が建設され、船がその中に収められたのちのことです。

原水禁運動の端緒となった第五福竜丸に、安井さん御夫妻が特別に関心をいだかれていたことは当然のことですが、これらの歌で、少なくとも、三回は船を訪問されたことが分かります。

この歌集の中に、もう一首、原水禁運動に関連した歌があります。

原水禁運動の統一またも成らず
ヒロシマの夏暑さきわまる

一九五五年以来、安井さんを中心として、続けられた原水禁世界大会も、しだいに政治色が濃くなり、とくに社会党と共産党間の確執があらわとなってきました。その結果、社会党系は一九六三年に大会から脱退しました。この歌は多分、その頃のもので、夫人の憂慮の念がよく分かります。

この全国規模の運動にまで発展した原水禁運動の発端は、東京・杉並区の公民館での婦人の読書会「杉の子会」であったといわれています。会の指導者は公民館館長を兼ねた安井さんでした。

当協会の理事の斎藤鶴子さんも、当時「杉の子会」の会員でした。私は斎藤さんにかねてから、原水爆禁止運動の歴史の一部として、当時の「杉の子会」の活動状況を記録しておいて下さいとお願いしてきました。

斎藤さんも、私の希望を了承され、準備をしておられるので、近いうちに、かつての「杉の子会」の活動状況が明らかになると思っています。

私の知りたいのは、政治とは縁の遠かった婦人たちの「読書会」が、どうして原水禁運動に傾斜していったのか。安井さんと読書会員との役割、原水禁運動の分裂と「杉の子会」の対応、いずれもわが国の原水禁運動史上、貴重な資料だと考えています。

斎藤さんから、お聞きしたことの中で、とくに私の興味をそそったことがあります。

それは、斎藤さんたちは米・ソの原水爆実験の可否論争に関連し、全面禁止を訴えてきました。また、核基地の設置反対運動に関して、斎藤さんはバートランド・ラッセル卿に、卿の意見を仰ぐ書簡を送ったということです。卿もこれらに賛成という丁寧な返事を寄こされたとのことです。

これは重要な文献であり、そのうちに、卿の返書の全文を紹介したいと思います。

第五福竜丸展示館を訪れて

福田昌子

一九八八年の夏、館林文化会館（群馬県）に於いて、「第七回平和のための館林の戦争展」が開催されました。そこで私は貴展示館からお借りしたという第五福竜丸の模型と対面しました。

第五福竜丸が被災したのは私がまだ小学生の頃でした。鮪を食べると危険だとか久保山愛吉さんという乗組員が逐に死亡したというニュースで賑わったことを憶えていました。

借用して来た展示物の中に、再びなびくことのない少々破損した大漁旗と数葉の写真がありました。その写真の一枚には久保山さんが亡くなって東京から焼津に向う時のお子さんが遺影を抱き、数珠を手に身のよじれんばかりに悲しみにくれる関係者の顔がありました。この一枚の写真は特に見学者の涙を誘い心を打ちました。私もその中の一人ですが、ぜひ本物の第五福竜丸を見たいと思い、借用した展示品をお返しに行かれる方にお願いして一緒に展示館へ行きました。

丁度夏休みだったのですが子供たちの姿が余り見られず夏の太陽のもとしんとした雰囲気だったことが印象に残っています。こんな貴重な展示館をもっと多くの人に知って貰う為には自分に何ができるのだろうと考えました。そして趣味として続けて来た俳句に詠みコンクールに投句することにしたのです。必ず季語を入れその季を統一するという制約がありますので、俳句には無理な題材を自分の気持が先行し作句は苦しかったというのが本音です。しかし幸いにして所属結社の俳誌「万蕾」に掲載されました。

鮪船被爆ビキニの海炎えて
マーシャル諸島奇病広がり
ゆく暑さ
被爆症癒えぬ漁師や夏盛る
三伏や被爆せし子を看取る母
被爆船地に置く炎暑展示館
ゆく夏や亀裂真深き方向舵

第五福竜丸は総トン数一四〇トンの小さな木造船であったことは驚きでした。この船で太平洋の海原へ漁に行った当時の乗組員の勇気、そして待っていたご家族のお気持を思わざるを得ませんでした。又展示館建設なるまでの関係者のご苦労を知りました。そして保存維持のご苦労はまだまだ続くのだと思いました。第五福竜丸は二十三人の乗組員を乗せ一九五四年三月一日早朝に危険区域外で被災、死の灰を死の灰と知る由もなく、死の灰を浴びつつ揚縄を終え、ある人はなめてみたり、袋に詰めて枕元に置いて持ち帰ったということを知った時、被災者の悲しみが自分の悲しみとなり、核を保有する人間の驕りに対する怒りの気持で一杯でした。死の灰は六時間も降り続き、甲板は雪が積もった様に真白くなったという。案内をして下さった方のご好意により船内に入ることができまして、本当に有難いことでした。二階から甲板に移ったわけですが、その数段の梯子を昇るのがこわかったこともありますが、甲板に立った時は感無量でした。

舷梯を昇る昂り暑を踏んで
死の灰の降りしデッキに
立つ炎暑
夏昏く船腹占むる魚艙あり
がらんどうなりき溽暑の操舵室
被爆船竈啾々と夏深む

東大病院の倉庫から発見されたという展示品、特に乗組員の乗船時の荷物は小さな枕ほどの柳行李一個だったこと、その中のわずかな日用品には胸が詰まりました。

夏寂ぶや遺品の徳利口古び
幹縄の巻かれしままの夏幾度
深海の色に涼しきガラス浮子

大小二個の浮子が今なお澄んでいたことが唯一の救いに思いました。高知の高校生の追跡調査、その後の後遺症に苦しむマーシャル諸島の現状を知りました。第五福竜丸の保存の意義は大きいし、自分にできることは何なのか自分に問い続けたいと思うのです。

愛吉の碑面のことば雷兆す

（館林商業高校教諭）